廓そだち

泉鏡太郎

青空文庫

古くから、人も知つた有名な引手茶屋。それが去年の吉原の火事で燒けて、假宅で營業をして居たが、續けて營業をするのには、建て復しをしなくてはならぬ。

金主を目付けたが、引手茶屋は、見込がないと云ふので、資本を下さない。

殊に、その引手茶屋には、丁度妙齡になる娘が一人あつて、それがその吉原に居るといふ事を、兼〻非常に嫌つて居る。娘は町へ出度いと言ふ。

女房の料簡ぢやあ、廓外へ出て——それこそ新橋なぞは、近來吉原の者も大勢行つて居るから——彼處等へ行つて待

合でもすれば、一番間違は無いと思つたのだが、此議は又その娘が大反対で、待合なんといふ家業は、厭だといふ殊勝な思慮。

何をしよう、彼をしようと云ふのが、金主、誰彼の發案で、鳥屋をする事になつた。

而して、まあ或る處へ、然るべき家を借り込むで、庭には燈籠なり、手水鉢も、一寸したものがあらうといふ、一寸氣取つた鳥屋といふ事に話が定つた。

その準備に就いても取〻々奇な事があるが、それはまあ、お預り申すとして、帳場へ据ゑて算盤を置く、乃至帳面でもつけようといふ、娘はこれを（お帳場〳〵）と言つて居る

が、要するに卓子だ。それを買ひ込む邊りから、追々珍談は始まるのだが……

先づ其のお帳場なるものが、直き近所には、四圓五十錢だと、新しいのを賣つて居る。けれども、創業の際ではあるし、成るたけ金を使はないで、吉原に居た時なんぞと異つて、總てに經濟にしてやらなくちや可かんと云ふので、それから其の女房に、娘がついて、其處等をその、ブラ〳〵と、見て歩いたものである。

茲に件の娘たるや、今もお話した通り、吉原に居る事を恥とし、待合を出す事を厭だと云つた心懸なんだから、まあ傍から勸めても、結綿なんぞに結はうよりは、惡くすると廂

髪にでもしようといふ――

閑話休題、母子は其處等を見て歩くと、今言つた、其のお帳場が、橋向うの横町に一個あつた。無論古道具屋なんです。値を聞くと三圓九十錢で、まあ、それは先のよりは安い。が、此奴を行きなり女房は、十錢値切つて、三圓八十錢にお負けなさいと言つたんです。

するとね、これから滑稽があるんだが……その女房の、これを語る時に曰くさ。

「道具屋の女房は、十錢値切つたのを癪に觸らせたのに違ひない。」

本人は、引手茶屋で、勘定を値切られた時と同じに、是

は先方（道具屋の女房）も感情を害したものと思つたらしい。

因で、感情を害してるなと、此方では思つてる前方が、件の所謂お帳場なるもの……「貴女、これは持つて行かれますか。」と言つた。

然うすると此方は引手茶屋の女房、先方も癪に觸らせたから、「持てますか。」と言つたんだらう。持てますかと言つたものを、持たれないと云ふ法はない。「あゝ持てますとも」と言つて、受取つて、それを突然、うむと、女房は背負つたものです。

背負ふと云ふと、ひよろ〳〵、ひよろ〳〵。……一足歩き出すと又ひよろ〳〵。……

女房は、弱つちやつた。可恐しく重いんです。が、持たれないといふのは悔しいてんで、それに押されるやうにして、又ひよろ〳〵。

二歩三歩ひよろついてると思ふと、突然、「何をするんだ。」といふ者がある。

本人は目が眩んで居るから、何が何うしたかは分らない。が、「何をするんだ。」と言はれたから、無論打着かつたに違ひない、と思つたんです。で、「眞平御免なさい。」と言ふと、又ひよろ〳〵とそれを背負つて歩く。然うすると、その背後で、娘は、クツクツクツクツ笑ふ。と、背負つてる人は、「何だね、お前、笑ひ事ちやないやね。」と言ひながら又ひよろ〳〵。

偖て、然うなると、この教育のある娘が、何しろ恰好が悪い、第一又持ちやうが悪い、前へ　して膝へ取つて持ち直せといふ。

それから娘が、手傳つて、女房は、それをその、胸の處へ、兩手で抱いた。

抱くと、今度は、足が突張つて動かない。前へ、丁度膝の處へ重しが掛かる。が、それでも腰を据ゑて、ギツクリ〳〵一歩一歩づゝは歩く。

今度は目は眩まない。背後の方も見えるから、振返つて背後を見ると、娘は何故か、途中へ踞んでて動かない。而して横腹を抱へながら、もう止しておくれ〳〵と言つて居る。無論可笑く

て立つ事も出來ないのだ。

それが、非常に人の雑沓する、江戸の十字街、電車の交叉點もあるし、大混雑の中で其の有様なんです。恐らく妙齢の娘が横腹を抱へながら歩いたのも多度はあるまいし、亦お帳場を持つて歩いた女房も澤山はあるまい。何うしても其の光景が、吉原の大門の中で演る仕事なんです。

往來を行交ふもの、これを見て噴出さざるなし。而して、その事を、その女房が語る時に又曰く、

「交番の巡査さんが、クツクツ言つて笑つて居たつけね。」

すると傍から、又その光景を見て居た娘の云ふのには、「その巡査さんがね、洋刀を、カチヤ〳〵カチヤ〳〵揺ぶつて笑つ

て居た。」と附け足します。

で、客が問うて曰、

「それを家まで持つて來たの、」

女房が答へて、

「串戲言つちや可けません。あれを持つて來ようものなら、河へ落つこつて了つたんです。」と、無論高い俥代を拂つて、俥で家まで持つて來たものです。

今度は買物に出る時は、それに鑑みて、途中からでは足許を見られるといふので、宿車に乘つて家を飛び出した。

その時の買物が笊一つ。而して「三十五錢俥賃を取られたね。」と、女房が言ふと、又娘が傍に居て、「違ふよ、五

十錢だよ。」と言ふ。

それから又別の時、手水鉢の傍へ置く、手拭入れを買ひに行つて、それを又十錢値切つたといふ話がありますが、それはまあ節略して――何でも値切るのは十錢づゝ値切るものだと女房は思つて居る。

偖て、店をする、料理人も入つて、お客も一寸々々ある事になる。

と、或お客が手を叩く。……まあ大いに勉強をして、娘が用を聞きに行つた。――さうすると、そのお客が、「鍋下」を持つて來いと言つた。

「はい。」と言つて引下つたが分らない。女房に、「一寸

鍋下を持て來い、と言つたが何だらう。」と。

茲に又きいちやんと稱へて、もと、其處の内で内藝妓をして居たのがある。今は堅氣で、手傳ひに來て居る。

と、其のきいちやんの處へ來て、右の鍋下だが、「何だらう、きいちやん知つてるかい。」と矢張り分らない女房が聞くと、これが又「知らない。」と言ふ。

「料理番に聞くのも悔しいし、何だらう……」と三人で考へた。考へた結果、まあ年長だけに女房が分別して、「多分釜敷の事だらう、丁度新らしいのがあるから持つておいでよ。」と言つたんださうです。

然うすると、きいちやん曰、「釜敷？　何にするだらう？」

此處がその、甚く仲の町式で面白いのは、女房が、「何かのお禁呪になるんだらう。」と言つた。因で、その娘が、恭しくお盆に載せて、その釜敷を持つて出る。と、客が妙な顔をして、これを眺めて、察したと見えて噴出して、「火の事だよ〳〵。」と言ふ。

でまあ恁云ふ體裁なんですがね。女中には總て怒鳴らせない事にしてあるんださうだが、帳場へ來てお誂へを通すのに、「ほんごぶになま二イ」と通す。と此を知る者一人もなし。で、誠に困つてる。

と、又、或時その女中が、同じやうに、「れいしゆ。」と言つた。又分らない。「お早く願ひます。」と又女中が言つた。

するとその娘が、「きいちやん、れいしゆあるかい、れいしゆあるかい。」と聞いた。

もと藝妓のきいちやんが、もう一人の手傳ひに向つて、

「あ、早く八百屋へおいで、」と言つた。女中が、

「八百屋へ行つて何うなさるんです。」

きいちやんが、

「だつてあるかないか知らないが、八百屋へ行つたらばれいしゆがあるだらう。」

女中は驚いて、

「冷酒の事ですよ。」

冷酒と茘枝と間違へたんですが……そんなら始めから冷酒な

ら冷酒と言つてくれれば可いのにと家内中の者は皆言つて居る。又その女中が「けいらん五、」と或時言つた。而して、それは、その、きいちやんたるものが聞きつけて、例の式で、「そんなものはない。」と言つたが、これは教育のある娘が分つた。

「ね、きいちやん、けいらんツて玉子の事だね。」

すると又きいちやんの言つた言葉が面白い。

「そんな奴があるものか。」

「だつて玉子屋の看板には何と書いてある？」

「矢張りたまごと書いてあるだらう。」と云ふんです。

……今の鍋下、おしたぢを、むらさき、ほん五分に生二なぞと來て、しんこと聞くと悚然とする。三つ葉を入れないで葱をく

れろといふ時にも女中は「みつなしの本五分ツ」といふ。何うも甚だ癪に障ると、家内中の連中がこぼすんです。

而して、おしたぢならおしたぢ、葱なら葱、三つ葉なら三つ葉でよからうと言つて居る。

――も一つ可笑な話がある。鳥屋のお客が歸る時に、娘が、「こんだいつ被入るの。」と言ふと、女房が又うツかり、「お近い内――」と送り出す。

明治四十五年五月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集　巻二十七」岩波書店
　　1942（昭和17）年10月20日第1刷発行
　　1988（昭和63）年11月2日第3刷発行
※題名の下にあった年代の注を、最後に移しました。
※表題は底本では、「廓《くるわ》そだち」とルビがついています。
入力：門田裕志
校正：川山隆
2011年8月6日作成

青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

廓そだち

泉鏡太郎

２０２０年　７月１３日　初版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/